

# 小学校高学年におけるティーボールを用いた打撃動作習得のための学習指導プログラムの有効性

## A study on the teaching program to acquire the batting using tee ball in the fifth and sixth grade of elementary school

1K08B146-7 西村 一哉

指導教員 主査 吉永 武史先生 副査 吉村 正先生

### 【研究の目的】

2008(平成20)年に改訂された新しい学習指導要領では、小学校のボール運動ならびに中学校の球技が「ゴール型」「ネット型」「ベースボール型」の類型で示された。それは、固有種目を学習するのではなく、それぞれの型に共通する内容を学習することが意図されたものであった。ベースボール型のボールゲームは、「打つ」「投げる」「捕る」「走る」などの多くの技術的特性を備えている。そのなかでも、「打つ」という打撃動作については、空中を移動するボールをバットで正確にとらえ、できる限り遠くへ、または守備のプレイヤーがいない場所へ打ち込むという高度な技術が求められる。そのため、これまでの体育授業では、難易度の高い打撃動作を簡易化した「ハンドベースボール」や「キックベースボール」などが教材として採用されることが多かった。しかし、そのような授業では、「投げる」という投球動作や「捕る」という捕球動作などの技術は習得されるが、打撃動作についてはその技能を高めることができないまま授業が終わってしまうケースが少なくなかった。そのため、高学年のソフトボールになると、「投げられたボールを打つ」という技術的困難さから、ある程度の技術を習得した児童でしかベースボール型ゲームの楽しさを享受することができないという問題が生じていた(神谷,2009)。

そこで本研究では、小学校高学年のベースボール型のボールゲームにおいて、打撃動作を習得するための学習指導プログラムについて検討することを目的とした。具体的には、「止まったボールを打つ」ための動作のメカニズムを明らかにするとともに、児童が動作を習得できるかについて検討を行った。また、ティーボールを採用することで、打撃動作を中心としたプログラムを作成することができ、どの程度打撃動作が習得できるようになるかについて検証した。

### 【研究の方法】

#### 1) 実験の対象

2011(平成23)年11月15日から12月7日にかけて、東京都内の小学校5年生1クラス(男子16名、女子13名)

を対象にティーボールの授業を実施した。

#### 2) 実験授業の学習指導プログラム作成

実験授業では、ベースボール型に属する「ティーボール」を教材として採用した。先述したように、本研究では打撃動作に学習の焦点をあてることから、単位教材として「ホームラン競争」や「カットインメジャーリーグゲーム」を設定し、児童がボールをうまく打てるようになるための手立てを取り入れた。また、打撃動作のポイントを具体的に示したり、児童同士で打撃フォームを観察し合う相互評価も取り入れ、8時間構成による学習指導プログラムを作成した。

#### 3) 実験授業における学習成果の検証方法

児童の体育授業に対する愛好的態度を確認するために、対象となった児童に対して実験授業の単元前後に「診断的・総括的授業評価」を、毎時間ごとに「形成的授業評価」を適用した。そして、学習指導プログラムの有効性を検証するために、単元前後に打撃テストを実施し、打球飛距離と打撃フォームの観点から分析を行った。

### 【結果と考察】

診断的・総括的授業評価の結果より、クラス全体の単元前の診断的授業評価の合計得点が51.79点であったことから、ベースボール型の学習に取り組む段階から児童の体育授業に対する愛好的態度は高かったことがうかがえる。しかし、女子児童の「運動の有能感」の得点が単元前の1.77点(2)から1.69点(1)へ下がってしまっていたことから、「打つ」に関する技能的困難さが大きく影響しているのではないかと考えられる。また、形成的授業評価の結果より、5時間目に一時的な落ち込むがみられるものの、単元進行に伴って高まっていることが確認された。そして、単元前後に実施した打撃テストの結果より、事前測定ではクラス全体の平均飛距離が18.76mだったのが、事後測定では21.79mであった。また、打撃フォームの分析結果より、「構え」ならびに「スイング」の段階においても高まりがみられた。以上のことから、本研究で作成した学習指導プログラムが児童の打撃能力の向上に有効であったといえる。